

概 要 報 告

実施期日	令和8年8月5日(水)
部 会 名	中学校 音楽部会

研究主題

主体的・対話的で深い学びの視点に立った授業改善

テーマ

『主体的・対話的な活動における、作音楽器での良い音の追求』

提案概要

〈実践内容〉 ギターを通して、自分なりの「良い音」を出すための奏法の工夫について考える。

〈手立て〉 ・特徴の異なる3曲から1曲選択し、正しい奏法を身に付けた上で、どのような音色が曲に合うか考え、ペアワークを通して思いや意図を表現する。

〈授業の流れ〉

- 1 時間目 自由にギターに触れ、フォーム等による音色の違いに気付く。
- 2 時間目 模範演奏を聴き、弾く場所や力の入れ方による音色の違いを考える。
- 3 時間目 良い音を出すことを目標にペアワークを行い、対話を通してより良い演奏になるよう活動する。
- 4 時間目 曲や音色に対する思いや意図をどのように表現しようとしたか言語化し、演奏するとともに活動を振り返る。

〈成果と課題〉

- 成果
- ・今までは技能に意識が向くことが多かったが、音色に耳を傾けながら演奏しようという姿が見られるようになった。また、身体や楽器のどの部分を使うと自分の理想とする音が出るのか、考える姿も見られた。
 - ・ペア活動で対話することにより、新しい気付きや自身を振り返る姿が見られた。
- 課題
- ・音色の変化に気付きにくい生徒の様子も見られた。
 - ・時間ごとに自身を振り返る時間を設定し、自身の成長に繋がられる場面を増やせるとよい。

質疑応答

特になし

協議の柱及び協議概要

市町ごとにグループを分け、小中それぞれの授業実践や手立て及び課題、今後の連携等について協議を行った。

協議の柱： 思いや意図をもったり、創意工夫をしたりして表現につなげる手立て

キーワード： 主体的な学び 協働的な学び 音楽を形作っている要素

- ・曲や音色を「良い」と感じたのはなぜか、どうしてそう思ったのか、要素を使って表現できるようにさせていきたい。
- ・感じたことを言葉にする難しさを感じている。

- ・楽譜に書かれている様々な記号（強弱記号など）を、作曲者からのメッセージと捉え、表現するための思いや、なぜそのようにしたのかなど、意見を出し合う活動をしている。
- ・様々な模範演奏を聴き、子ども達それぞれが、自分のイメージをもっておく。
- ・新しい曲に入る度に、前回の曲との違いを考え、何が違うのか、どのように表現すればよいのか話し合う。
- ・教師がその曲を理解し、着眼点をどこにするか、意図をもって授業を行う。
- ・興味を引き出すことはできても、思いや意図を引き出すことに課題を感じている

まとめ概要

どのように思いや意図をもって演奏するかについて考える場面が多く見られた。生徒の「思いや意図」に繋げるための手立てを、実態を踏まえながら工夫して指導を行った。

何をどうすれば音が変わるのか、生徒たちはギターの様々な部分に触れたり、自身の身体の使い方を考えたりしながら、理想とする音色が出せるよう、意見を出し合いながら取り組んだ。また、タブレットの録画機能を使い、自身の演奏を見返して改善を行うことで、自己調整ができる練習の場面も見られた。

発表の中では、以前はあまり音色を意識して演奏していなかった生徒が、今回の授業を通して、音色での表現に思いや意図をもって演奏した録音があり、生徒の変容が見られた。

今回、小中共に課題として上がったのは、振り返りの工夫である。提示資料や発問の工夫を行い、次回の学習活動への繋がりを意識させることが大切であると考えた。また、活動の際に対話の視点を示すことや、評価場面の設定なども挙げられた。

器楽演奏では技能に注目しがちであるが、どのような音楽を創っていきたいのか、イメージや演奏する目的を考えた上で活動を行うことで、自ら思いや意図を深めていくことができる。そのために、私たち教員は児童・生徒に新しい発見や出会いをさせるための手立てを常に考えていきたい。